

市政懇談会会議記録（要約）

令和元年 10 月 30 日 19:00～21:15 寒川農村環境改善センター 2 階ホール

出席者

市 市長 副市長 教育長 市民部長 生活環境課長 総合支所長 危機管理課（増本）生活環境課長 外 2 名

自治会長等 119 名

内容

意見等は次のとおり（5 人）

○長尾公民館について

長尾公民館の建設時期はいつごろになるか。

→ 公民館整備の優先順位としては、施設が老朽化している長尾公民館と働く婦人の家に看板だけをつけている志度公民館を計画しているが、設置場所についてはまだ明確には決定していない。ただ長尾公民館については今の支所を取り壊した跡に公民館を建てるという暗黙の了解があるように思っている。なお、来年度の予算案に志度公民館と長尾公民館の基本設計に関する経費を計上したいと考えている。

○超高齢化に伴う今後の自治会運営等について

人口減少と超高齢化に伴い、特に山間部等では限界集落から消滅集落へとなることが時間の問題であると思われる。このため自治会運営が困難な状況となっており、広域的な自治会活動組織等について、市当局の方向性を示されたい。

→ 広域的な自治会という話があったが、大きくなるとよいこともあるが欠点もある。住民一人ひとりを大切にしたいのであれば小さい方がいいということもあり兼合いが難しい。島根県の雲南市では多機能な小規模自治組織といった取り組みを行っている。今後、限界集落や消滅集落においてはもう少し広い範囲で自治会の再編成を行わなければいけない。その時は市の方である程度仕組みを作り応援していくことも必要であると考えている。現在、市の若手職員がそういう将来的な自治会組織の在り方を研究しているので、そういったことも参考に、連合自治会の皆さんにも相談しながら進めていきたい。

○大川地区の行政組織について

大川出張所、社会福祉協議会大川支所と大川公民館を一体化してサービスの向上と経費の節減を図ることが可能かどうか。

→ 出張所の見直しについては皆さんに非常にご不便をおかけしており、市議会からも住民が困っている部分については検証して対応するようと言われている。大川地区については、大川公民館を志度や長尾公民館と同じような時間設定で建替えていくというのは、おそらく財政的にも無理だと思っているが、今後機能を集約して行政サービスの効率化を図っていく必要があるものと考えている。農村環境改善センターの活用もあわせて、今後地元や連合自治会の方に相談しながら進めたい。

○農業施設に関連した事故防止の安全対策について

豊中町のため池で幼い姉と弟が水死したという事故があり、遺族が県と市、豊中土地改良区に対して三千万円の損害賠償を求めた訴訟があった。このように施設管理者に対して損害賠償請求に陥った場合、市としてはどのように考えているか。

→ この事件については、大変痛ましい事故であったと記憶している。

ため池というのはそれぞれに管理者が異なっている場合があるが、市や土地改良区は法律上認められた法人であるのに対して、水利組合は法人格を持っていないため法的には法人ではない。このため、早く土地改良区の中の一組織になるよう国や県からも指導している。そうしないと水利たとえば税金面で課税されたり損害賠償を負うようなことが考えられる。県の土地改良事業団体連合会では、事故等が起こった場合に備えて保険に入っている。豊中町の事故の場合も土地改良区の保険金で支払われた聞いている。なお、ため池での事故防止については、今後とも注意喚起等をしてまいりたい。

○災害時の緊急避難場所の指定について

現在、洪水とか地震とか土砂災害等発生した場合の富田西地区の緊急避難場所はさぬき南中学校になっているが、市のため池ハザードマップでは地区内にある双の池が決壊した場合には、さぬき南中学校は冠水するという想定が示されている。緊急避難場所として県立の石田高校を指定することができないか。

→ 水量が10万トン以上の大規模なため池は市内に16か所あり、双の池も

その一つである。ハザードマップを作った際には、石田高校の耐震がまだできていなかったが、現在では石田高校も耐震ができているようである。石田高校を避難場所にするといった見当はできるが、学校の方の了解も必要であるので、危機管理課の方と一緒に検討させていただきたいと考えている。また、現在の防災マップの中ではため池の決壊を想定していない場合がある。現在実施中のため池の調査が終わればハザードマップをやり直す必要がある。その際に問題のある緊急避難場所や避難所の指定も一緒に考えていきたい。

○高校再編、市民病院及び長尾出張所について

県立高校三校の統廃合が発表された。島根県ではきめ細かい教育をするために小規模校を残しているが、そこから学ぶべきではないか。市民病院についても島根県の取組を参考にしてほしい。また、支所がなくなり喪失感がある。非常時の災害拠点にもなると思うので残すべきであると考えている。

→ 県立高校の統廃合については、3校とも歴史と特色のある学校である。JR高徳線や地域活性化に果たしている県立高校の役割も極めて大きい。県にはそういったことをクリアにする方法を考えてもらって、一人でも多くの住民の方が納得するような説明をしていただくように、要望してまいりたいと思っている。

市民病院については、しっかりと医者を確保したうえで、地域の病院として県や市が一本となって財政を支えていく必要があると思っている。

長尾出張所については、この一年間でいろいろな具体的な問題点を集めて検証していきたいと考えている。

○防災対策について

ハード面での防災対策とソフト面での防災対策、自治会等への防災講座などについて考えを示してほしい。

→ よく行政はハード面で対応ができないことをソフト面でカバーする風なことを使ってしまうが、防災や減災に関してはソフト面だけでは対応できない部分があるので、ハード面とソフト面とをうまく組み合わせていきたい。

また、ソフト面においては自治会の方でも考えていただいて、自治会と行政との役割分担を整理する必要があると考えている。行政としてできることは取り組んでいくが、自分の命は自分で守るという風に自主防災組織や個人としても防災意識を高めていただきたい。

防災に関する啓発については、危機管理課の方で出前講座等を行っている

ので、自治会で必要であればご要望いただきたい。

○大串半島の活性化、コミュニティバスの見直し及び市民病院について

→ 現在大串半島でグリーンヒル大串という施設の取り壊しを行っており、跡地に新しい施設を作りたいと思っている。今その基本的な構想を堀部安嗣という建築家に依頼している。この建築家は、大串のテアトロンを設計した山本忠司さんのことを研究されている京都工業繊維大学の松隈洋さんという教授の方から紹介をしていただいた方である。大串の自然と共生し簡素でかつ伝統を生かしたものをしたいというコンセプトが山本先生の瀬戸内海論とも一致すると考えている。

→ コミュニティバスについては、デマンド方式について大川町の田面の方で実証的に運行を行っている。来年度具体的な見直し案を作る予定である。

→ 市民病院については、まずはしっかりと医者を確保し、地域のかかりつけ医や香川大学医学部等と連携を取りながら市民病院の名に恥じないような病院にしていきたいと思っている。

市政懇談会会議記録（要約）

令和元年 11 月 1 日 19:00～20:50 さぬき市役所 301・302 会議室

出席者

市 市長 副市長 教育長 市民部長 生活環境課長 総合支所長 危機管理課（増本）生活環境課長 外 2 名

自治会長等 65 名

内容

意見等は次のとおり（7 人）

○志度公民館について

志度公民館の建設に関する進捗状況はどうか。

→ 志度公民館については、現在働く婦人の家に志度公民館の看板を掲げているが、広さの問題や高潮、津波のリスクが高い。このため、現在新しく建設する場所を検討中である。来年度の予算で建物を建てるための基本設計の費用を予算化したいと考えている。今後連合自治会の志度支会や自治会の方にご意見をお伺いしたいと考えている。

○運転免許返上者の移動手段の確保について

高齢者等、交通弱者の移動手段確保について、デマンド型利用、実験運用について今後の予定等について。

→ 現在大川町の田面地区でデマンドタクシーの実証実験を行っているので、その結果を踏まえて、来年度の地域公共交通会議の中で議論しながら新しい交通システムについて検討を進めてまいりたい。

○県立高校の統廃合について

県立高校参考の統廃合が発表された。島根県ではきめ細かい教育をするために小規模校を残しているが、そこから学ぶべきではないか。

→ 県の教育委員会からは、東讃地区において子どもの数が今後ますます減少する中で、さぬき市と東かがわ市の両方で 4 つの学校を持つことはできない。また、不透明な社会の中で生き抜いていける人間を育てるための高校を目指しており、少人数のところでは少し難しいため統合を余儀なくされているという話があった。

各高校の先輩方からは、現在の高校の特色を残してほしいという意見が圧

倒的に多いので、そういった意見を踏まえて今後県教育委員会に対し強く要望をしていきたいと考えている。

○災害時の避難準備情報等について

災害時にさぬき市では全域に避難準備情報を出しているが、他の自治体ではもう少し小さい市町村を指定しているケースが多いと思うがどうか。

→ 一概には言えないが、本来はピンポイントでした方が住民の方にとっては分かりやすいと思う。しかし、たとえば町単位で避難準備情報を出した場合に、町境の人がうちは大丈夫であると誤解されてもいけないという問題もある。人命にかかわることなのでどうしても広い範囲に避難情報を出してしまっているが、本当に危険なところとそうでないところを区別するような情報が出せるかどうか検討してまいりたい。

○市長からさぬき市の明るいニュースを教えていただきたい。

→ 先に憂いて後で楽しむという「先憂後楽」という言葉があり、市長とはそういう姿勢でいないといけないと思っている。もちろん楽しいことはいいが、その楽しさが持続可能なものなのかどうか。そういったことに責任取るのが、首長の役目であると思っている。

○津田川に土砂が堆積しており雑草が生い茂っている。そういうところをほったらかしにして水害対策を自助、共助と市民に強制するのはいかがか。

→ 市民に強制したことはないと思っているし、強制するものではない。具体的に問題のある箇所というのがあればお話ししていただければ、県の長尾土木事務所等と連携して優先順位をつけて少しずつでも実施していきたい。

○鴨部川の堤防改修をしているが部分的には現状より低くしていると聞いているがどうか。

→ 県の工事であるが恐らくは科学的な流量等の計算の上で実施しているはずである。改修する前より悪くなるなら改修しない方がましである。具体的な場所を教えていただけたら、後で確認して返事をさせていただく。